

平成28年度 第4回豊岡市教育委員会の会議（定例会）会議録

○ 開会及び閉会の日時及び場所

平成28年7月21日（木）

場 所 豊岡市役所城崎庁舎2階 大会議室

所在地 豊岡市城崎町桃島1057番地の1

開会時間 午後1時30分

閉会時間 午後3時30分

○ 出席委員及び欠席委員の氏名

|      |              |       |
|------|--------------|-------|
| 出席委員 | 委員（委員長）      | 深田 勇  |
|      | 委員（委員長職務代理者） | 中川 茂  |
|      | 委員           | 宮嶋 珠美 |
|      | 委員           | 佐伯 和亜 |
|      | 委員（教育長）      | 石高 雅信 |

欠席委員 なし

○ 委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

|     |                                |        |
|-----|--------------------------------|--------|
| 事務局 | 教育次長                           | 丸谷 統一郎 |
|     | 教育総務課長                         | 和藤 達也  |
|     | 教育総務課参事（企画係長）                  | 午菴 晴喜  |
|     | こども教育課長                        | 能登 琢也  |
|     | こども教育課参事（教育研修センター・こども支援センター所長） | 鳥居 保   |
|     | こども育成課長                        | 福富 省吾  |
|     | 教育総務課参事（課長補佐）                  | 正木 一郎  |
|     | 教育総務課教育総務係長                    | 向原 芳江  |

事務局以外 地域コミュニティ振興部

|        |       |
|--------|-------|
| 生涯学習課長 | 井上 貢  |
| 文化振興課長 | 木下 直樹 |

○ 日程

第1 会議録署名委員の指名

中川 茂 委員

第2 前回の会議録の承認

平成28年6月22日（水）開催 第3回定例会

第3 教育長の報告

#### 第4 地域コミュニティ振興部の報告

##### 1 生涯学習課

- (1) 「夏休みラジオ体操顔見知り運動」について
- (2) 「植村直己冒険賞20周年記念事業」について
- (3) 第63回兵庫県人権教育研究大会但馬地区大会について

##### 2 文化振興課

- (1) Toyooka Art Season 2016 総合チラシについて
- (2) Toyooka Art Season 2016 とよおかアート縁日について
- (3) とよおかミュージアムスタンプラリー2016について
- (4) 第67回豊岡市美術展の開催について

#### 第5 教育委員会事務局の報告

##### 1 教育総務課

- (1) とよおか教育プラン平成27年度実践計画最終検証結果について

##### 2 こども教育課

- (1) 平成28年度豊岡市中学校生徒会リーダー研修会について
- (2) 夏季休業中の研修について
- (3) 豊岡市こども支援センター6月の活動状況報告について

##### 3 こども育成課

- (1) 夏季休業中の幼児教育・保育研修会について

#### 第6 議事

- 議案第14号 平成28年度豊岡市教育委員会の点検・評価報告書の決定について
- 議案第15号 寄附物件の申出について（3件）

#### 第7 委員活動報告

#### 第8 教育委員会活動予定

- 1 次回教育委員会会議の日程について
- 2 今後の活動・行事予定

#### ○ 会議の概要

---

開会 午後1時30分

---

(深田委員長)

ただいまから平成28年度第4回定例教育委員会会議を開催いたします。本日は教育委員5名全員が出席しておりますので会議の定足数を満たしております。会議が成立していることを報告させていただきます。

では、次第に従いまして会議を進めてまいります。

### [日程 第1 会議録署名委員の指名]

(深田委員長)

日程第1「会議録署名委員の指名」です。本日は中川委員にお願いします。

### [日程 第2 前回の会議録の承認]

(深田委員長)

日程第2「前回の会議録の承認」に入ります。平成28年6月22日に開催しました第3回定例会の会議録の承認を委員の方々に求めたいと思います。事前に配付されておりますので確認いただいていると思いますが、誤り・語句の修正などはありましたでしょうか。

(委員)

なし。

(深田教育長)

「なし」の声がありましたので、会議録につきましては承認することに決定します。

### [日程 第3 教育長の報告]

(深田委員長)

日程第3「教育長の報告」に移ります。教育長、報告をお願いいたします。

#### 《教育長の報告概要》

6月22日から今回の定例教育委員会会議開催までの期間における教育活動の概要

\* 6月22日に豊岡総合高校のこれからの教育の進め方、豊岡市が行っている小中一貫教育を受けて豊岡総合高校としてどのような形で進めていくのかについて協議した。県の高校教育課も大変熱心に取り組んでいただいた。高校教育課長が同じ高校に同じ件で2回も足を運ぶというのは事例としてはあまりないと思う。そういう中で、ふるさと教育・英語教育・コミュニケーション教育について具体的に進みつつある。

まず、ふるさと教育は豊岡総合高校全体で取り組んで行くと聞いている。英語教育については総合学科の系列の中に国際コミュニケーション系列（仮称）を作り、英語の時間を増やして子どもたちの英語教育を進めていこうという取組が考えられている。また、豊岡総合高校に今まで派遣だったALTが、この8月から常駐になったという話を聞いている。併せて、何年生になるのか決まっていないが、コミュニケーション教育を総合学科で取り組んでいくと聞いている。コミュニケーション教育については私たちが紹介したのだが、平田オリザさんの話を一度聞こうということで8月22日は豊岡市の研修に参加し、高校としてどのような形でコミュニケーション教育を行っていくのかについて、8月25日に豊岡総合高校だけで平田オリザさんの話を聞くことが決まっている。また、ピクトリア市への語学研修についても、新年度予算の中で検討するよう、市長から指示があった。

\* 6月25日に豊岡市のPTCAの事業があった。これは眠育についての講演だったのだが、さっそく自分の学校の実態を重ね合わせて、社会体育における午後9時以降の取組について、検討する

必要があるということで、「活動時間を午後9時までに終えてほしい」と具体的にスポーツクラブ21に申し入れたという取組をした学校もある。

- \* 6月29日に第1回いじめ防止対策委員会が開催された。これは年間数回開催されるが、第1回目ということで昨年度の報告が中心であった。2回目については、いじめの報告を受けて学校がどのような取組をしたのかを、学校関係者だけではなく学校以外の方々にその取組事例を具体的に精査していただきながら、もっとこういう視点から取り組む必要があるのではないかということも併せて実践的な検証、実践的な研修をしていってはどうかという意見も出ていた。第2回目以降のいじめ防止対策委員会についてはそういう内容を含めた取組にしていきたい。
- \* 7月7日から19日まで学期末の学校訪問を行った。1学期に定例の学校訪問を行っていないところを学校訪問するというので、1学期には2校しか行っていないので残り36校をすべて回った。年々思うことだが、校長と20分間ぐらいの対談だがいろいろと話をしていく中で、やはり支援を必要とする子と親の両方が増加していることを感じている。そういうことについても今後どうしていくか、しっかりと検討していく必要があると思う。
- \* 7月8日に地区教育長会議が開催された。これは県の教育長、県の教育委員会幹部職員との年1回の協議の場であるわけだが、本年度は3つのテーマで協議した。その1つに若手教員の授業力をどう向上させていくのかということで、3市2町それぞれの取組について、教育長が発表した。その発表を聞く中でそれぞれ取組が違うなという印象と同時に、果たしてこれで但馬の教師の授業力が向上するのかなということを感じた場面もあった。今後私も但馬地区の教育長会の代表をしているので、何かの機会に、もっと但馬の教師の授業力を向上させていくことが大切ではないかということも訴えていく中で、豊岡市が取り組んでいる事例も話しながら、但馬全体で授業力向上に向けての取組がなされるようにもっていきたいと思っている。3市2町の報告の中で、具体的に何をやってるという報告ができたのは豊岡市だけで、他は抽象的な報告でしかなかったように感じている。

(深田委員長)

教育長からの報告は終わりました。今の報告の中で質問がありましたらお願いしませんが、ないようですので教育長報告を終了させていただきます。

#### [日程 第4 地域コミュニティ振興部の報告]

(深田委員長)

日程第4「地域コミュニティ振興部の報告」に入らせていただきます。まず生涯学習課からの報告を受けたいと思います。

### 1 生涯学習課

《生涯学習課長の報告概要》

#### (1) 「夏休みラジオ体操顔見知り運動」について

今日から夏休みが始まり、地区のラジオ体操が始まっている。顔見知り運動の一環で一斉ラジオ体操を各地区に小学校区単位でお願いをして、それを一覧表にまとめている。教育委員の方々も近くの会場にぜひ足を運んでいただきたい。

## (2) 「植村直己冒険賞20周年記念事業」について

植村直己冒険賞は平成8年に創設され、今年で20周年を迎える。この記念すべき年に、受賞された方々や選考委員の先生方をお招きして、「未来へつなぐ笑顔と挑戦～伝えよう、冒険心と感謝の心～」をテーマとして記念事業を実施する。日程は8月27日・土曜日、28日・日曜日で各時間割は資料に掲げているとおり、会場は27日は日高文化体育館、28日は植村直己冒険館の周辺である。

27日・土曜日は、歴代受賞者、現在のところ8名の方々の近況報告並びにゲスト講演を開催する。入場料は無料。ゲストは1998年長野オリンピックで個人並びに団体入賞された荻原次晴さんで、日本百名山の登山を目指して今がんばっておられる。チャレンジすることの素晴らしさを語っていただく予定にしている。終了後、午後5時から冒険館の中庭で交流会を実施する。これは会費制で、大人は1,000円となっている。

28日・日曜日は、植村直己冒険館周辺で9時から親子で楽しめるいろいろなイベントが繰り広げられる。イラストレーターの黒田征太郎さんをお招きしたお絵かきや感謝の手紙書きなどを実施する。冒険家によるシカやイノシシなどの肉のいぶし焼きのおもてなしもあるので、ぜひお立ち寄りいただきたい。

今回、教育委員会の施設である豊岡市立歴史博物館「但馬国府・国分寺館」とのコラボレーションで、夏休みに歴史博物館並びに植村直己冒険館に子どもたちに来館してほしいという考え方でチラシを作成した。

## (3) 第63回兵庫県人権教育研究大会但馬地区大会について

第63回兵庫県人権教育研究大会但馬地区大会が8月4日・木曜日に開催される。10時から市民会館で開会行事が実施される。教育委員の中では石高教育長が但馬教育長会の会長として兼務されているので壇上に上がっていただく。その後記念講演会等があり、午後からは13の分科会が実施される。

### 《教育委員の質問・意見概要》

(中川委員)

ラジオ体操について、去年と比べて実施する校区が増えたことは評価できると思うが、それでもまだ地区ごとにといふところもある。特に来年度からは地域コミュニティがスタートする年でもあり、なんとか市も関わって、土日で実施するとか工夫はできると思うので、親が子どもを連れて行って体操するというような対応をお願いしたい。

(深田委員長)

生涯学習課、以上で終了します。続きまして、文化振興課より報告を受けたいと思います。

## 2 文化振興課

### 《文化振興課長の報告概要》

#### (1) Toyooka Art Season 2016 総合チラシについて

Toyooka Art Season 2016については、これまで市が文化施設で夏から秋にかけて個別に展開していた文化芸術活動を、今年度、パッケージ化して豊岡の新たな魅力として内外に発信

しようとするものである。期間は明日7月22日から11月29日までとなっており、全部で34事業ある。内容について、後でゆっくりとご清覧いただき、1つでも多くご参加いただきたい。

## (2) Toyooka Art Season 2016 とよおかアート縁日について

Toyooka Art Season 2016のキックオフイベントとして「とよおかアート縁日」を明日、午後3時30分から午後8時まで、市民プラザで開催する。Toyooka Art Season の開幕を告げるとともに、事業PRや各文化施設の活動紹介などを行う予定である。ステージは1部が午後4時から、2部が午後6時からで、特に1部ではArt Seasonの関連アーティストや高校の文化部のパフォーマンスを披露していただき、司会も高校の放送部にお願いしている。2部ではArt Season 関連アーティストの他に平田オリザさんと市長との対談なども予定している。その他に豊岡のアートを楽しむブースや豊岡の食を楽しむブースなども用意している。入場料は無料で、出入り等も自由なので、教育委員の方々もぜひ気軽にお立ち寄りいただきたい。

## (3) とよおかミュージアムスタンプラリー2016について

とよおかミュージアムスタンプラリーは、博物館と美術館を市民の皆様が親しんでいただく機会として、特に子どもたちが文化に親しむ機会になればということで、各施設を巡るスタンプラリーを実施するもの。期間は3月10日までとしており、2館以上のスタンプから応募できる抽選などを用意している。また豊岡市民は9月30日まではクールスポットとして1回目、2回目とも半額で入場できる。子どもたちには夏休み前に学校を通じてすでにチラシを配布している。夏休みの自由研究などに役立つ機会になるのではないかと考えている。教育委員の方々もぜひご参加いただきたい。

## (4) 第67回豊岡市美術展の開催について

今期市展の会期は11月2日・水曜日から11月6日・日曜日までの5日間となっている。児童・生徒の出品は図画・習字の2部門で、出品規定等については例年と変わらない。作品搬入は10月13日と14日の2日間としている。表彰式は11月3日・文化の日に10時30分からじばさんで予定している。教育委員の方々には出席いただくよう予定をお願いしたい。

### 《教育委員の質問・意見概要及び事務局の回答・説明概要》

(深田委員長)

平成27年度の実践計画の最終検証結果報告を読んでいたら、「美術展は大変な負担になるから実行委員会方式だとか一部民間に委託とかを考えたらどうだ」というようなことがあったが、そのようなことについては何か動きがあるか。

(文化振興課長)

今回、企画委員会の中でも委員からの意見を頂いたが、まだ具体的には話がまとまっていない。実際、ボランティアとして豊岡総合高校、豊岡高校から来ていただいている。文化協会からもボランティア等で協力してくださるという話も出ているが、具体的に何がお願いできるかということをしてできるだけ業務内容を示す中で今後協議をさせていただきたいと考えている。

(深田委員長)

歴史ある美術展なので、継続するということが大切だと思う。継続可能なかたちで運営を進めてほしいという思いがあり、検証結果報告を読んで、大変な負担になっているんだなど改めて感じた。ご苦労さまだがよろしくお願ひしたい。

(深田委員長)

文化振興課の報告は以上で終了させていただきます。

以上をもちまして地域コミュニティ振興部の報告を終わらせていただきます。

## [日程 第5 教育委員会事務局の報告]

(深田委員長)

日程第5「教育委員会事務局の報告」に移りたいと思います。まず最初に教育総務課より報告をお願いします。

### 1 教育総務課

《教育総務課参事〔企画係長〕の報告概要》

#### (1) とよおか教育プラン平成27年度実践計画最終検証結果について

平成27年度実践計画最終検証結果報告書の説明の前に、教育プラン実践計画の概要について説明させていただく。

まず、第3次とよおか教育プランの概要だが、とよおか教育プランは平成18年に策定した豊岡市教育行動計画に続く第3次の計画として平成27年2月に策定している。内容は豊岡市の家庭教育や学校園における保育・教育に関する基本理念を明示したものとなっており、2つの基本方針と9つの基本的方向で構成している。計画期間は平成27年度から平成31年度までの5年間としており今年度で2年目を迎えている。またこのプランは市長が策定をする市の教育に関する大綱としても位置づけられている。

次に実践計画書の内容説明と合わせて、平成27年度の最終検証結果について報告する。実践計画書はプランの基本理念を具体的なものとするために毎年度定めることとしており、基本的方向ごとに指標、いわゆる目標数値を設け具体的に施策に取り組んでいる。これらの取組について担当課や外部検証委員会の検証を行うとともに秋頃からはその検証結果を踏まえ次年度の実践計画書の作成も行っている。昨年度からであるが、実践計画について同一年度内に取組の検証を行いながら次年度の実践計画書も作成するという流れとしている。このため担当課や外部の検証委員による検証は主に年度途中となり、事務局ではこの検証を中間検証として位置づけている。本日報告する最終検証は、この中間検証時の指標、数値目標などを年度末のものに置き換えたり、外部検証委員の意見等を踏まえて次年度計画書の策定にあたって担当課の考え方等を最終的に整理したものとなっており、7月7日に開催した第1回検証委員会において報告し、承認された。

《教育委員の質問・意見概要及び事務局の回答・説明概要》

(中川委員)

外部の検証委員会の中間意見を改めて目を通したのだが、実態をつかんでおられるし、うまくまとめておられると思う。問題は、担当課の最終検証のS A B C D。前回は申し上げたことだが、

本当に役に立っているのかなと思う。全体で154の取組のうち、Sの「廃止」が2、これは学校整備計画や耐震化などの関係で、理解できる。次にAの「拡充推進」が154のうちの10、圧倒的に多いのがBの「継続推進」の142。中間に比べてAの数が増えたというのは評価したいが、それでもまだ全体の中ではBが多すぎて、「拡充推進」の必要がないのかなという思いがした。Aの数ももう少し多くてもいいのではないかなと思う。逆にC、Dの「要改善」や「取組廃止」、これはまったくないのだが、新しく事業をやっていこうと思えば、やはりこのあたりの「廃止」があってもおかしくない。また、このABの判断というのが各課で何となしに違うのではないかな。こういった状態のときにそれがAでBなのかという目合わせが必要ではないかなと思う。また、同じ施策内容でもこども教育課とこども育成課とでは検証結果が違うということもある。具体的には、「こども支援センターの機能の充実」というのがあって、こども育成課は、中間検証のCからBに格上げになったことはいいのだが、ところが昨年来取り組んできたこども支援センターの機能がBでいいのかなというのがある。このあたりは教育委員会の積極的な姿勢を示す意味でも当然、Aの「拡充推進」に含まれるべきではないかなと思う。

英語教育についても、こども教育課はAになっている。ところがこども育成課の「英語への興味関心を育む保育の推進」の「英語教育の充実」はB。平成29年度から、保育園についても全園で実施しようということなので、Aにしてもおかしくないのではないかな。同じ英語教育ということで考えるなら、評価でニュアンスが違うというのはいかなるものか。教育委員会としての積極的な姿勢を示すものはAだと思う。少なくとも対外的に保護者や議会を対象に今、力を入れてやろうとしていることというのは、何度も言うがBではなしにAにするべきだと思う。

(深田委員長)

学校図書ボランティアのところについて、中間検証では「定期的なボランティアの研修会を開催し、質向上を目指す」ということになっているが、担当課の最終検証のところには何も出てこないが、このような課題として提示されているものについては、最終的に検証したものを何か答えるべきではないかなと感じた。

人権教育、道徳教室について、中間検証のところで、「考える道徳の授業をどのように取り組んでいくのかということについても十分考えてほしい」ということが書いてある。平成31年だったと思うが、道徳も教科書が作られることになるので、それについても何らかの形で最終検証では提示をしておくことが必要だったのではないかなと思っている。

健康教育のところで家庭教育の話が出てきてるが、「PTAの大きな課題でもあるので親同士がもっと対話と協力をしていく必要があると考える」というようなことが書いてある。健康教育だけではないが、家庭教育のことを考えればPTA活動のあり方について何らかの形で方向性は示せないまでも分析はしていく必要があるのだろうと思うので、PTA活動についてもなんらかの審議会とは言わないまでも、考えていかなければいけないのかなと感じている。

評価不能というところがある。とよおか家族の日だったが、「評価不能」というのは変かなと疑問を少し感じた。

(教育総務課参事〔企画係長〕)

検証委員会の中で、「市役所の中では広がっていても、他の一般企業の人が同じ日に取組ができるような状態になっているかどうか判断できない」との意見もあり、そのような点を踏まえて評価された結果となっている。



(深田委員長)

まさにこれは豊岡地域全体を巻き込んでいくような大きな取組で、課題は大きいというのは始めからわかっている。

(教育総務課参事〔企画係長〕)

中間検証は10月上旬には行っているのですが、この取組については主たる取組日との日程的かい離もあり、評価しにくい状況もあったと考える。

(深田委員長)

教育総務課の報告は以上で閉じさせていただきます。続きまして、こども教育課の報告をお願いします。

## 2 こども教育課

《こども教育課長の報告概要》

### (1) 平成28年度豊岡市中学校生徒会リーダー研修会について

豊岡市中学校生徒会リーダー研修会を、8月18日・木曜日、午前9時半から12時の予定で実施する。会場は豊岡地区公民館で、市内の各中学校の生徒会役員が集まって各学校の実践の交流を通して自校の活動を見直し合う。昨年度はインターネットを介したSNS関係のルールづくり等に取り組んだが、今年は「ふるさとについて語り合うことを通し、郷土理解とともに郷土への愛着心を育む」ということで、学校教育に結びつく部分だと思いが、中学生の生徒会の役員たちが、ふるさとについてどのような考えを持っているかが伺い知れる機会になるのではないかと考えている。教育委員の方々にも機会があれば参加いただきたい。

《こども教育課参事の報告概要》

### (2) 夏季休業中の研修について

選択制研修講座については、豊岡市の教育課題の1つである特別に支援を要するこどもたちへの教育的ニーズに対応する問題に対する研修で、今年度でこの形としては3年目を迎えている。一昨年は4コマ、昨年は午前午後2日間で合計4コマ、今年は2コマということで研修を計画している。今年度の参加者は7月29日は現在のところ248名、8月29日には266名という参加希望がある。教育長からの厳命で、これまで選択制研修講座という形で研修を行うにあたって一度も参加をしていない教職員については必ず参加するようにと各校に周知をし、参加の希望を募っている。

豊岡市教育フォーラムは、毎年行っている東井義雄先生の東井教育の現代的実践化を目指した研修会である。8月18日に市民会館文化ホールで開催する。本年度も関西福祉大学教授の菅原先生に総括助言をいただく形で講師としてお招きしている。

8月22日に平田オリザさんによる豊岡市コミュニケーション教育教職員研修会を開催する。昨年同じ内容で第1回目をしており、本年度は、昨年未受講者を対象にしており、2年間で全員がこの研修会に参加するという形のものである。

豊岡市管理職研修会については、中尾繁樹先生を講師に8月29日の午前中に管理職を対象にした研修会として実施する。平成28年4月1日から障害を理由とする差別の解消推進に関する法律、いわゆる障害者差別解消法が施行されている。その法律によって各学校・園におい

ては合理的配慮の提供義務が法律化された。それに対応するため、合理的配慮の提供を学校管理職としてどのように適切な提供を行っていくのかということについての研修会となる。

豊岡市小中一貫教育全教職員研修会は、平成29年度より全中学校区において小中一貫教育が実施されるにあたり、全教職員による共通理解を促して理解を深める会として、8月10日に行う。今年度の第1回総合教育会議の際に中貝市長が、すべての先生方に話す機会がないかと発言され、その調整をした結果、この研修会で中貝市長が話をされる時間を30分確保している。また、5月26日に行われた今年の第1回小中連携推進協議会において座長をしていたいただいた佐藤真先生に総括講演をしていただく研修会となっている。

### (3) 豊岡市こども支援センター6月の活動状況報告について

6月期に特別な動きを取ったということはないが、確実に活動している。今年度は夏休みの時間を活用して、それぞれの小学校、中学校の特別支援教育の学級担任の懇談をこども支援センターの心理士に申し込みをする形で行うようなことや、今年度初めて、8月19日には、こども支援センターの心理士が講師となって特別支援学級の担任研修会を行うように計画をしている。

#### 《教育委員の質問・意見概要》

(深田委員長)

こども支援センターの職員が研修の講師をするというところまで来たということは、すごい進歩だと思うと同時に大変苦勞をかけることになると思うが、全体的にもそういうことによって特別に支援を要する子どもたちに対するインクルーシブ教育の概念は、豊岡市全体の先生方の意識がすごく高まることになると思うので、大変嬉しく思う。ただこの後、研修を受けた先生方が現場の中で十分そのような心を持ってやっていただいたら成果も出てくるということを期待すると同時に、難しいとは思いますが、点検ということをしなないといけないと思ったりする。大変ご苦勞だが、このようなことまで進んできたということは、こども支援センターを設けた意義が十分あったという意味ではないかなと思っている。

(深田委員長)

では、こども教育課報告、以上で終了させていただきます。

こども育成課の報告をお願いします。

## 3 こども育成課

#### 《こども育成課長の報告概要》

##### (1) 夏季休業中の幼児教育・保育研修会について

夏季休業中、幼稚園、保育園・認定こども園の先生方の研修会を予定している。

7月29日は、選択制研修講座の午後の時間を幼保の先生方向けに時間を取っていただき、関西国際大学の百瀬准教授に3年連続で特別支援の観点からの講演をお願いしている。

8月4日の午前には、幼児教育についてもこども支援センターの臨床心理士にそれぞれの子どもたちの発達を踏まえての講義をお願いしている。

また、8月4日の午後はファーストエイド研修ということで、乳幼児の健康面でのいろん

な悩みが園の先生方にあるということで、兵庫大学健康科学部の細井講師に「こんな時にどうするの？」ということで、昨年が続いて講義をお願いしている。

8月8日には、「こどもに寄り添った保育を進める」という教育委員会の方針に基づき、地元の豊岡短期大学の宿南教授に「保育者のまなざしが子どもを育てる」という観点からの講演をお願いしている。

8月22日には、「心を明るく元気にする陽転思考とは？」ということで、場活師の泉先生に組織のあり方、園の経営面、そういった観点からの講演をお願いしている。

(深田委員長)

こども育成課に対する質問、ご意見はありますか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

ではこども育成課の報告は終わらせていただきます。教育委員会の事務局報告、以上で終了いたしました。

ここで休憩に入ります。

---

休憩

---

(深田委員長)

休憩前に引き続いて会議を再開します。

## [日程 第6 議事]

(深田委員長)

日程第6「議事」に移りたいと思います。これより審議案件についての審議に入ります。本日は2件ありますのでよろしくお願いいたします。まず議案第14号「平成28年度豊岡市教育委員会の点検・評価報告書の決定について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

### ○議案第14号 平成28年度豊岡市教育委員会の点検・評価報告書の決定について

《教育総務課長の説明概要》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会の点検・評価報告書、平成27年度事業分（案）を作成したので、この内容をもって当該点検・評価報告書とすることの決定について審議をお願いしたい。なお決定後には、議会への提出及び豊岡市ホームページなどで公表を行う予定。

まず点検・評価報告書は1から4の、4つの柱で構成している。1ページは、趣旨、策定根拠となる法令、実施の方法など総括的事項を記載している。2ページには、点検・評価する事業の考え方と検証方法を記載している。第3次とよおか教育プラン平成27年度実践計画に位置づけたすべての施策、取組を対象とすること。点検・評価の方法は学校現場における検証、それから教育委員会事務局など担当課における自己検証、更に検証委員会における検証を行い、年度末に担

当課で最終検証を行ったことなどがその内容となっている。併せて、点検・評価の客観性の確保、学識経験を有する方の知見の活用を図るため、関西学院大学の佐藤真教授に総評を頂いたことなどを記載している。

3ページから9ページまでは教育委員会組織の概要、教育委員会会議の開催状況、審議案件とその結果。10ページ、11ページは平成27年度から始まった総合教育会議や、市民との対話を求めた教育懇談会について、また学校訪問をはじめ、定例・臨時の教育委員会会議以外の活動などについて記載している。12、13ページは情報発信と、とよおか教育プラン平成28年度実践計画や豊岡市学校施設整備計画の策定などの取組を教育委員会活動のまとめとして記載している。

15ページからが教育委員会施策の点検・評価で、これまでと大きく違っているところである。検証シートについては、とよおか教育プラン平成27年度実践計画の検証総括シートを使っている。内容については先ほどの平成27年度実践計画最終検証結果報告書の説明のとおりなので省略させていただきます。

最後に53ページから55ページまでが佐藤真教授の総評である。基本的には活動について肯定的な総評をいただいているが、子ども同士で多様な学び合いができる学校、とりわけ新しい教育システムを効果的に進めるための学校のあり方について検討が求められているし、学力向上策の徹底をふるさと教育とともに見直し、学力の向上を目指されたいなどの意見も頂いている。また今後の教育施策の取組についても厳しく、さらに的確な指摘や要望を頂いており、平成27年度の活動全般を踏まえて次年度につなげているところである。

(深田委員長)

説明は終わりました。質疑に入ります。質問、質疑はありませんか。

(中川委員)

先ほどの教育プラン実践計画の検証結果報告のほうで言えばよかったのですが1点言い漏らしていました。この資料で言えば27ページをご覧くださいと思います。「大韓民国・合衆国・モンゴル国との友好親善交流の実施」は、外部検証で唯一クエスチョンマークがついてる項目であるにもかかわらず、最終検証もBになっている。これはBではなしにCになると思うが、検討をお願いしたいと思います。やはりABCの評価というのは、外部有識者の佐藤先生も総評の中で、「評価の客観性や妥当性をさらに高め」ということを書かれているが、実際なかなか難しいですね。例えば、全国学力・学習状況調査のように具体的な数値に基づくものではないので、そこが難しいのであれば、エネルギーを費やすよりも、いつそ項目をやめてしまったらどうか個人的には思います。

(深田委員長)

質問というか疑問も呈されてるということですが、何か答えられる点がありましたら教育総務課長答えていただけますか。

(教育総務課長)

総体的な点検の仕方について、事務の効率化を図っています。これまでのこの報告書に係る点検・評価は、教育委員会の主要な施策、事業のうち社会的関心が高いもの、事業費が多額なもの、

そういうものだけを特化して評価をしてきました。果たしてそれが教育委員会の活動ということでいいのかということがまず1点ありましたし、検証委員会が実践計画の検証と、この点検・評価の検証と2つ行っていたということがあるので、1つの検証作業を併用することが、一番効率的で実効的ではないかということで、このようにさせていただいたことを報告させていただきます。

(中川委員)

それについては何も言わないですが。

(深田委員長)

他に何かありますか。

(教育総務課参事〔企画係長〕)

今ありました評価の方法、AとかBとかCとか、確かに大変難しいところがあります。指標も設けて見える化を踏む中で評価するときに何かないと担当課の評価を外部委員に検証していただくにもわかりにくいというのがありましたので、今回ABCというのを紆余曲折しながら設けさせていただきました。それがベストなのかどうかは課題が残るかと思いますので今後も検討しながら考えていきたいと思います。

(教育総務課長)

先ほど言いました各課の目合わせというあたりにつきましては、これから整理なり考えていかなくはないと思っています。また関係課の会議等がこれから始まってまいりますので、そのあたりを踏まえていきたいと思っています。

(深田委員長)

その他何か質疑ありますか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

質疑打ち切りをさせていただきます。討論に入ります。討論はありませんか。ご意見等をお願いします。

私から少しお話しします。基本的には大変よく精緻に作っていただいていると思いますので、これでいいのではないかという考えを持っています。そういう立場で少し言わせていただきます。

この点検・評価の最終報告のところにも書いてありましたけれども、他の部署とまたがるものについては基本的には各課毎に評価の観点が違うのだらうと思うのですが、擦り合わせた形で書くか、それとも評価の観点が違うのだったら明確に評価の観点をそれぞれ、こども育成課ではこう、こども教育課ではこうという、その点について評価をしているんだということを何らかの形で工夫したほうがいいのかなど感じました。今からそのあたりについても十分検討するというこ

とですので、それでいいのかなと思います。

もう1点は教育委員活動のまとめと書いてあるところ。やはり教育委員のまとめと思って、評価をきちっと受けるのだなということを感じながら読んでいました。そのようなことを思ったら、もう少し教育委員のアカウントビリティというものを示した文章にしたほうがいいのかなと思う。大変さらっと抵抗なく書いてあるから別にそれが問題になることは何もないと思いますが、自分の立場からすればそういうことを感じております。教育委員活動のまとめも活動をよく承知していただきしっかりとまとめていただいている点については有難く思っております。私からは以上です。

他は何かありますか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

では討論打ち切りをさせていただきます。それではお諮りいたします。本案につきましては原案のとおり決定するということでご異議ありませんか。

(委員)

異議なし。

(深田委員長)

「異議なし」の声がありますので異議なしと認めます。議案第14号につきましては原案のとおり決定いたしました。

続きまして、議案第15号寄附物件の申出についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

## ○議案第15号 寄附物件の申出について

《教育総務課長の説明概要》

資料の一覧のとおり、個人1件、団体2件の寄附物件の申出があったのでこれを受納しようとするもの。

(深田委員長)

説明は終わりました。それでは質疑に入ります。質問等ありますか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

では質疑を打ち切らせていただきます。討論に入ります。ご意見等ありますか。

(委員)

なし。

(深田委員長)

討論打ち切らせていただきます。それではお諮りいたします。本案については原案のとおり受納を承認するというご異議ありませんか。

(委員)

異議なし。

(深田委員長)

「異議なし」の声がありますので異議なしと認めます。議案第15号につきましては原案のとおり承認するというご決定いたしました。

本日の議事につきましては以上2件ですので、これで議事を終了させていただきます。

## [日程 第7 委員活動報告]

(深田委員長)

日程第7「委員活動報告」に移らせていただきます。各委員から、前回の定例会から本日までの間にいろいろ活動されまして、感じられたこと等について簡単に感想のような形で結構ですので報告をお願いしたいと思います。どなた様からでも結構です。

### 《各委員の報告概要及び事務局の説明概要》

(深田委員長)

今年は今まで2校の学校訪問をした。家庭環境が大変複雑化していると同時に、家庭への支援活動が必要な家庭が多くなっているということをも2校の校長先生方の説明を聞いていても感じた。学校が家庭支援をある意味では仕事としてやらないといけない時代になっていると思うと同時に、そんなことになったら学校はもたないなと感じた。同時に、だからこそ今から学校がしっかりと子どもや家庭に対して、俗に言う教育的距離というか、そういうものをしっかりと持って接していかななくてはならないと感じた。子ども理解のために接近すると同時に、相手が目覚めたり自ら追求、探究するための離隔というものが必要だということが昔から教育ではよく言われることだが、そういう接近と離隔をしっかりと学校が持っていないといけない時代になってきているのかなと感じた。

7月11日に豊岡市の青少年問題協議会に出席した。市長のあいさつの中にハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチという話があった。行政手法の中でそのようなことを考えていけないといけないのだという話だったと思う。アプローチの仕方についても接近とある程度の距離感をもって成果を重視した場合には、主体性を相手に持たせるということが大切なのだと。そういう共通点があるのかなと思った。

その会議でたくさんの報告があった。福祉事務所から高等学校まで、9カ所からの報告があったのだが、総じて言えば、ぐ犯案件も含めて但馬豊岡では大変減っているということで、小中学生共に前年度比でいうと41%減ぐらいになっているという話だった。大変子どもたちも落ち着いた

て生活しているということがよくわかった。その一方でいじめに関しては増加傾向にあるという報告だった。それは初期からの対処ができるように早い時期からの発見、報告が増えているから増加傾向にあるのではないかという分析もされていた。報告の後の意見交換についても総じて落ち着いているという状態だったので、そんなに大きな論議になるということもなかった。今のところ豊岡市内全体から見ると子どもたちの活動等についても良好な状態にあるのではないかなということを感じた。

(宮嶋委員)

6月29日に兵庫県女性教育委員会研修会が淡路市で開催され参加した。今回はタブレットについてという研修内容で、まず淡路市のタブレット活用教育推進事業の取組について淡路市教育委員会の方が説明され、次に実際にタブレットを使っておられる先生の話、最後に業者の方が来られていて、私たちも2人に1台使わせてもらってタブレットを触るという内容だった。淡路市は「すべての教員に研修を」というスローガンで平成24年からフロンティアプロジェクトという取組をされているそうである。その内容は研修会から帰ってから後日、教育総務課の方に十分ではないが話をさせていただいた。これから豊岡市もタブレットを使っていく時代が来ていると思うが、私が研修会の中で一番心に残った言葉というのが、「1時間のうち80%、90%をタブレットを使う授業がよい授業ではなく、興味を引き出す道具というか、それをを用いて子どもと対話することが一番大切だ」ということ。当たり前のことかもしれないが本当にそうなんだなという感想を持った。

7月17日に中学校の但馬総体があり、応援がてら見に行った。暑いときで熱中症対策という観点で見ていたわけではないのだが、先生方は競技の構成に気を配られていた。また水分補給について、子どもたちだけでなく応援している保護者の方にもマイクを使って「水分補給をしてください」という配慮があり、応援している者としては有難いなと感じた。

(佐伯委員)

学校訪問で小学校と認定こども園に行かせていただいた。そこで思ったのは先生方の笑顔が少ないということ。低学年の先生はそれなりに笑顔で対応されていたが高学年に行くにつれ先生方が真剣に教えているというのが前面に出ているのか、私たちが見学していて緊張があったのかもしれないが、笑顔が全然ないなと思った。ある程度笑顔も意識しながらの授業のほうが子どもたちと心が通じるのではないかなと思う。もう少し先生方に表情豊かな対応をしていただきたい。そうすれば、もっともっと子どもたちが先生や授業に興味を持ったり、先生方との距離が縮まる…そういう状態になるのではないかなと感じた。それは認定こども園に行ったときにも感じた。たまたまその日は緊張されていてそういうことになったのかもしれないが、もう少し笑顔での対応をしていただきたい。コミュニケーション能力を上げていきましょう…ということを進んでいるのなら、まずは第一に笑顔が必要なのではないかなと思った。

但馬教育委員会連合会の総会・研修会にも出席した。但馬内の各教育委員の方たちが出席されていて、改めて思ったのは、豊岡市の教育委員会・教育委員の方々は教育に対して一所懸命されている、それも穏やかな空気の中でされているなと思い、そういうところのメンバーに入れていただけて本当に有難いなということであった。



(石高教育長)

「教育長の報告」の中で、学期末訪問を含めて学校を回ったときに、支援を要する保護者、子どもも含めて増えているという話をさせていただいた。これからスクールソーシャルワーカーを配置しようとしているが、問題はスクールソーシャルワーカーに具体的にどういった役目をはっきりと提示していくのか。そのスクールソーシャルワーカーの役割と同時に、スクールソーシャルワーカーの範囲を超えた仕事が出てくると思う。そのあたりを例えば福祉の視点でいくなれば、どういったところにつないでいくのかというシステム作りをしっかりとした上でスクールソーシャルワーカーの配置をしていかなかったら、ただ「配置しましたよ、いろんな問題に対応しています」ではそこから先の解決がない。本当の意味での真の解決まで結びつく、そういったところまでいかないとダメだなという思いを持つので、そのあたりを今後検討をしていただきたいと思う。スクールソーシャルワーカーは具体的に何をどこまでするのか。

(こども教育課長)

スクールカウンセラーは子どもの心理に関わるが、スクールソーシャルワーカーは子どもを取り巻く環境への働きかけや家庭の支援になってくるので、そこを現状把握をして見立てをして分析をする中で外部の関係機関等、どこにつなぐのが一番適切だとか、そういったつながりを作っていくということが仕事になってくるかと思っている。

(石高教育長)

ということは、例えば民生児童委員との関わり、あるいは福祉との関わりを、行政そのものが横にしっかりと太いパイプでつながっていなければ、スクールソーシャルワーカーを派遣してそこでいろんな課題について取り組んでいくのだが、そこから先がしっかりと根を張った形にならないと、本当の意味の解決に向けての取組につながらないのではないかと思うので、そのあたりを一度しっかりとスクールソーシャルワーカーの配置と同時に民生児童委員を所管する課、それから要保護を含めた生活保護に関することの担当課と一緒にいろんなやりとりができる体制を作っていく必要があるのではないかと思う。

(こども教育課参事)

要するにスクールソーシャルワーカーは、福祉の専門家として学校に関わるということが主な配置の狙いだが、学校に拠点を置くということがある。スクールカウンセラーは心理の専門家、スクールソーシャルワーカーは福祉の専門家というように学校を取り巻く環境が複雑化してきているので、心理の専門家が外部から入ってくる、それだけでは足りない。では福祉の専門家も必要だなということで福祉の専門家も外部から入ってくるということになっている。後はコーディネートする機関をどこに置くかということになってくるのかなと思う。豊岡市の場合、こども支援センターの機能充実を図って、こども支援センターの中に家庭相談係という係がしっかりと入っているので、そこと連携をしていくということがまず学校関係は網羅をする1つの近道かなとは思う。

(石高教育長)

学校訪問をしたときに、研修センターの指導主事が入って、ビデオカンファレンスという形で授業を行い、2年目、3年目の先生を対象にして指導している。この取組は本年度から始めた取組だが、私はしてよかったと思う。最初に教育長報告の中で報告した若手教員をどう育てていくのかという授業力向上に向け、まさに具体的で実践的な研修で、おそらく校内研修でもここまで

できないのではないかと思う。1年後にその先生の授業がどう変わったか、そのあたりを検証しながらこのビデオカンファレンスの制度が、先生方の授業力向上のための1つの取組として、トワイライト研修と同時にこれを位置づけながら若手教員の授業力の向上を図っていくということも今後しっかりと定着させていく必要があるのかなという思いはある。

(こども教育課参事)

指導主事は、今ピンポイントで関わって行って、行って帰る度に話をしているので、その学校のこともよくわかるし、本当にマンツーマンでいろんな話を聞きながら具体的な指導をしているので、2年目、3年目の先生たちにとってはものすごくいい研修になっているのかなと思う。採用初年度は様々な先生が関わるが、2年目、3年目というのは悪い言葉で言うと放ったらかしになる。かといってそんなにキャリアがあるわけではないので、指摘のとおりこの研修は大きな可能性を秘めたものになるという気はしている。

(石高教育長)

研修対象は1人の先生だが、この研修を通してその後ろにある学校の文化・風土が見えてくるような感じがする。管理職の力量を含めて、周りの先生方がいったいどうなのかと。そのあたりも今度は各学校の指導に活かすようにしていく必要もあると思う。1人の研修を通して組織をどう活性化させていくかという、そこにどうつなげていくかということも大事な取組だと思う。

(深田委員長)

宮嶋委員が話をされていた体育大会の話で思い出したのだが、検証結果の報告書を見ていたら、「各種体育大会の充実については参加することが手段となっている感もあり、豊岡市小学校児童体育祭、中学校総合体育大会が児童生徒の運動の楽しさや喜びを実感させ、生涯にわたり継続して運動に取り組むことができる資質や能力を育てているかどうか検証していく必要がある」と書いてある。これを読んでいて具体的にどんなことを検証せよと言ってるのか。大会が不要だと言ってるのか、それとももっとプログラムを考えろと言ってるのかどうなのかなと思った。検証委員会の意見でその辺のところがよくわからなかった。豊岡市版の小学校の体育準備運動の共通実践と体育授業の充実というところは、担当課としても十分できてるというAの評価。私もそう思っているが、その辺のところから言えば十分体育大会などでそういうものが活かされていていいはずなのにと考えた。

(教育総務課参事〔企画係長〕)

記憶が定かではない部分があるが、豊岡市が進める幼児期からの運動教育については必要性があるし大切なことだと検証委員の皆さんも認識があった。その部分についてはなく、例えば、中学校全体の体育大会などを単純に行うのではなく、規模や時期、方法なども含め検証しなさいという内容であったと思う。

(深田委員長)

これで委員活動の報告については終了をさせていただきます。

## [日程 第8 教育委員会活動予定]

(深田委員長)

日程第8「教育委員会活動予定」について、事務局より説明をお願いします。

《教育総務課教育総務係長の説明概要》

## 1 次回教育委員会会議の日程について

次回の教育委員会会議の日程は、8月19日・金曜日、午後1時30分から、本庁舎3階庁議室で開催する。

第6回の定例会の日程を決めていただきたい。開催希望日として、9月26日・月曜日か翌日の9月27日・火曜日のどちらかをお願いしたい。9月は移動教育委員会で但東地域で開催する。定例会終了後は、学習会で但東中学校のMISSION IN TOKYO の話を但東中学校長から聞く予定にしている。

＜ 各委員の都合を確認し、第6回定例会は9月27日・火曜日の午後1時30分から、但東庁舎2階大会議室で開催することに決定した。＞

## 2 今後の活動・行事予定

今後の活動・行事予定は資料に記載のとおりである。また、9月、10月の体育祭・運動会の日程を一覧にしているので清覧いただきたい。来月の定例会で委員の割振りを報告させていただく。9月は議会も開会する。出席の確認を来月にはさせていただきたい。

(深田委員長)

今後の活動日程につきまして説明をいただきました。活動、行事予定についての説明に対して質問はありますか。

では今後の活動行事予定については以上で終了させていただきます。

予定の次第はここまでです。その他何かありましたらお聞かせください。

ないようですので、以上をもちまして定例教育委員会の会議を閉会させていただきます。

---

閉会 午後3時30分

---